

ぶどうの木と枝

2020年6月14日

ヨハネの福音書15章1～11節

序：イエス・キリストの捕縛・十字架目前 ゲッセマネ途上
弟子たちへの遺言
不安・恐怖・絶望 ⇒ 平安・勇気・希望

I. この喩え話

- (1) 農夫 = 父なる神 = ぶどう園の世話 = 神のための豊かな実り
- (2) ぶどうの木 = 主イエス・キリスト = 幹 = 枝々に養分を送る
- (3) ぶどうの枝 = 信者・弟子たち = 幹につながる枝々 = 結実

II. ぶどう（葡萄）

- (1) 存在の意味 = 実を結ぶこと
材木や他の目ぼしい用途はない
エゼキエル 15・2～5 たきぎがせいぜい
- (2) 実の用途 = 生食、乾燥フルーツ、葡萄酒
- (3) 性質 = 世話をせず放置すれば、伸び放題
葉やつるは伸びても実はない
太陽の光、根から吸い上げる養分、風通し
- (4) 手入れ = 土壌、剪定、地面から引き上げて病気を防ぐ、鳥獣から守る

III. 4種類の枝々

- (1) 実を結ばない枝
- (2) 実を結ぶ枝
- (3) もっと実を結ぶ枝
- (4) 豊かに（多くの）実を結ぶ枝

IV. 実

- (1) 良いわざ（外に結ぶ）
神に栄光を帰する私たちの思い、ことば、態度、行い、生活（15・8）
主が私たちを選び、任命したのは、実を結ぶため実が残るため（15・16）
良い行いをするために、キリスト・イエスにあって造られた（エペ 2・10）
- (2) 御霊の実（内に結ぶ） キリストに似る性質
愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制 （ガラテヤ 5・22～23）

(3) 他の人をキリストに導く、魂を勝ち取る

あなたがたは、主にあって私の働きの実ではありませんか (Iコリ 9・1)

V. 豊かな実を結ぶには

(1) 刈り込み

叱責 = 口頭による警告 ヘブル 12・5

良心の呵責、他人の時宜にかなったことば、みことば、聖霊

懲らしめ = 訓戒の厳しい段階 ヘブル 12・5

不安、苛立ち、苦痛 喜びであったものがそうでない
満たされない、他人に批判的、神との不和

むち = 罰・激しい痛みを与える ヘブル 12・6

明らかに罪の中に生き、正しいことを故意に無視
長期間、罪を放置した結果

Iコリント 11・30

あなたがたの中に弱い者や病人、死んだ者が大勢いる

現在進行中の罪に気付いたら、悔い改める

(2) とどまる

枝が木に (一体・いのちの共有)

信者がキリストに

とどまらなければ、実を結ぶことはできない

何もすることができない

捨てられ、枯れ、燃やされる

とどまれば、何でも求めるものがかなえられる

主とともにいること・時を過ごすこと

不従順なまま、主にとどまることはできない

主のお考え・なさり方がわかり、導きを知ることができる

神の霊的祝福を深く汲み上げることができる

神の働きのために、新しい力を与えられる

祈りが応えられる約束がついてくる

VI. 結び

私たちの段階は? どんな刈り込みを頂戴しているか?

実を結ばないあるいは少ししか実を結ばない原因はどこにあるのか?

手放さなければならない罪 ⇒ 悔い改め

明け渡さなければならない自我 ⇒ 神に委ねる

主が望んでおられるのは、主とともにい続けること (何かをする前に)

豊かな実を結ぶこと